

日本の1-3月期GDPはマイナス成長

ポイント① 1-3月期はマイナス成長

5月18日発表の2022年1-3月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比▲0.2%、年率換算では▲1.0%とマイナス成長に転じました。1-3月期は新型コロナウイルスのオミクロン型の感染が拡大したため、まん延防止等重点措置が適用された影響を受けました。

需要項目別の前期比実質増減率を見ると、家計消費は▲0.1%、設備投資は+0.5%、輸出が+1.1%、輸入が+3.4%となりました。家計消費は伸び悩んだもののほぼ横ばいで、設備投資も概ね堅調だった一方、コロナ・ワクチンが輸入を押し上げ、外需が大きくマイナス寄与しました。

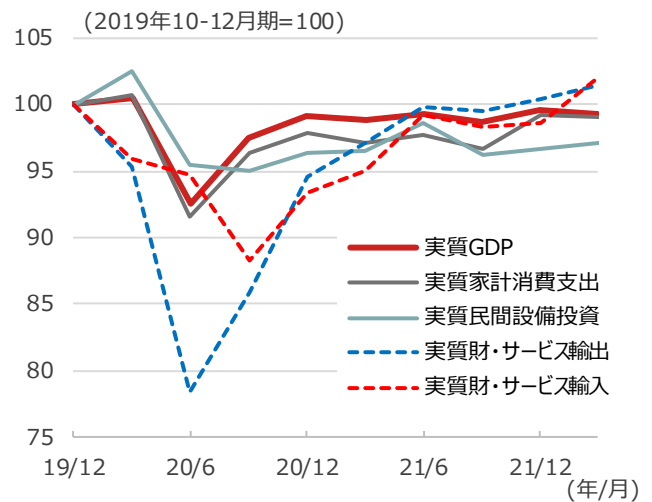
ポイント② 日本でもインフレの足音

世界でインフレが加速する中、これまで日本のインフレは抑えられてきましたが、GDPデフレーターが前期比+0.4%と、2021年のマイナス圏からプラス圏に浮上しました。食品関連の値上げ発表などにあるように、輸入に頼る原材料の価格が高騰し、国内物価にもインフレが波及し始めた様子が確認できます。インフレ動向は今後の金融政策に影響を与えるので、注視が必要です。

ポイント③ 4-6月期はプラス成長に回復か？

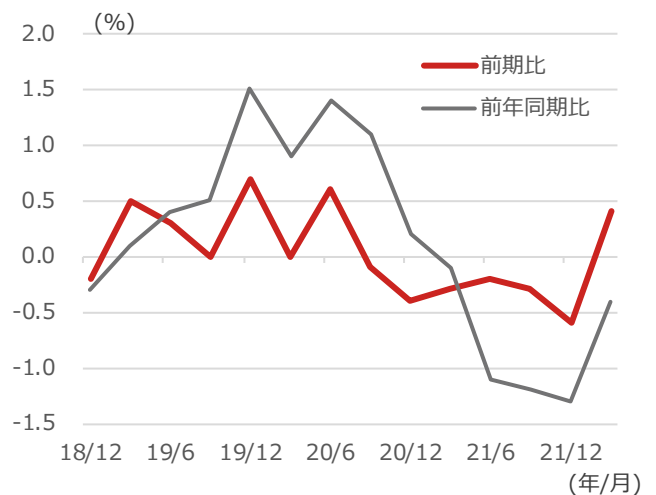
市場コンセンサスによれば、4-6月期はプラス成長に回復しそうです。国内では久しぶりに制限のない大型連休を過ごすなど、国内消費は回復が見込まれます。但し、中国での厳格なゼロコロナ政策の影響でサプライチェーン（供給網）が混乱しており、生産活動への影響が懸念されるため、中国の今後の動向には注意が必要です。

日本の実質GDPと主要需要項目



期間：2019年10-12月期～2022年1-3月期、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日本のGDPデフレーターの推移



期間：2018年10-12月期～2022年1-3月期、四半期
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	5月19日	機械受注（3月）
	5月20日	全国・消費者物価指数（4月）
	5月27日	東京・消費者物価指数（5月）